PART3　だに・すら・さへ・し

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	類推（〜　　　）
さへ	添加（〜　　　）

★「類推」の構文

A［　　］ （サエ）**だに**／**すら** B［　　　　］

「　（　　　　）」

C［　　］ はなおさら ［　　　　］

※**「だに」**には**限定用法**（＝　　　　〜　　　　）もある。

〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　　　」を見る。

だに＋〜「　　　」・「　　　」・「　　　」・「　　　」→ **限定用法**

問八　「跡をだに形見に見むと思ひしを…」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

A　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
B　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
C　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
D　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
E　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

★**「し」の用法**＝「　　　　」

①「**し**　　　」・「**し**　　　」
②「A**し**Bば」
③「Vと**し**V」　※同じV

第15講　PART3　確認問題

① 「『翁丸か』とだにいへば、よろこびてまうで来るものを、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　翁丸（おきなまろ）…犬の名

ア　さえ　　イ　までも　　ウ　だけでも　　エ　ばかり

② 「見てけりとだに知られんとおもひて書きつく。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私が見たのかどうかと不安を感じさせよう
イ　私が見たことを知らせて後悔させよう
ウ　私がたしかに見たことだけは悟らせよう
エ　私が見たかもしれないと思わせておこう

③「聖などすら、前の世のこと夢に見るは、いと難かなるを、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　徳の高い僧などだけでも
イ　徳の高い僧などまでも
ウ　徳の高い僧などでさえ
エ　徳の高い僧などだけが

④傍線部が「そこにいる人の毛穴まで見えるほどである」という現代語訳になるように、空欄に入れる副助詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

望月(もちづき)の明さを十あはせたるばかりにて、ある人の毛の穴□見ゆるほどなり。

ア　だに　　イ　すら　　ウ　さへ　　エ　し

⑤「今日しも端におはしましけるかな。」の傍線部の意味・用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　類推　　イ　限定　　ウ　添加　　エ　強意

第15講　PART3　解答

問八　Ａ

第15講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① 下に意志・願望・仮定・命令のいずれの表現もないので、類推で「〜さえ」と訳す。よって、アが正解。

② 「だに」の下に助動詞「ん〈む〉」があり、「と」の上の「ん〈む〉」なので「意志」と考えられる。よって、この「だに」は限定用法。よって、ウが正解。

③ 「すら」は類推の副助詞で「〜さえ」と訳す。よって、ウが正解。

④ 「〜まで」という添加の意味を持つ副助詞は「さへ」。よって、ウが正解。

⑤ 「し」は省いても文意が通じることから強意の副助詞。「しも」の形であることからも判断できる。よって、エが正解。

〈解答〉

① ア　② ウ　③ ウ　④ ウ　⑤ エ